〈博士課程前期課程〉

〔2〕修了要件

博士課程前期課程を修了し、修士の学位を取得するための要件は下記の通りです。（大学院学則第44条参照）

⑴　博士課程前期課程に２年以上在学すること。

※　在学期間に関しては研究科委員会が優れた研究業績を上げたと認めた者については短縮されることがあります。

⑵　論文研修第一、論文研修第二、論文研修第三及び論文研修第四を含めて30単位を修得すること。ただし、優れた研究業績を上げて早期に修了する場合は、早期修了の在学期間中に修得すべき論文研修科目を含めて30単位修得すること。

⑶　修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

〔3〕授与される学位

専　攻	学　位
数学、物理学、生命科学	修士（理学）
都市人間環境学、精密工学、電気電子情報通信工学 応用化学、ビジネスデータサイエンス、情報工学、生命科学※	修士（工学）

※　生命科学専攻で修士（工学）を取得することができるのは、授業科目担任表に定める「推奨する科目」（工学科目）を中心に履修し、他専攻の開講科目（注）の単位を８単位以上履修した場合に限ります。またこの場合、最終的に授与される学位の別は、研究科委員会での審査を経て決定されます。
（注）数学専攻、物理学専攻の授業科目、および全専攻共通科目であるグローバル人材育成推進科目は除く。なお、副専攻の理工学研究科共通授業科目は含む。

〔4〕早期修了制度

理工学研究科博士前期課程では、大学院学則第44条に基づき、早期修了制度を設けています。早期修了には以下の条件について審査があります。早期修了を希望する場合は、指導教員または理工三学部事務室大学院担当にご相談ください。

早期修了制度は下記すべての条件を満たしていると理工学研究科委員会が認めた場合のみ、適用される。

⑴　在学期間が、「早期修了」時点で１年半で修了する場合は１年半以上、１年で修了する場合は１年以上であること。

⑵　「早期修了」の在学期間中に履修すべき論文研修科目を含めて30単位以上を修得していること。

※　１年半修了の場合は論文研修科目９単位、１年修了の場合は論文研修科目６単位必修

⑶　専攻が別途定める優れた研究業績があること。

⑷　早期修了を希望していること。

⑸　指導教員が推薦していること。

〔5〕ダブルディグリープログラム

ダブルディグリープログラムとは、中央大学大学院理工学研究科博士前期課程と海外の協定校の両方に在籍し、それぞれの大学における所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した場合に、本学及び協定校の両方から学位が授与されるプログラムです。

募集要項は中央大学公式HPを通じて配布します。出願にあたっては事前にかならず指導教授と相談してください。

1　協定校

▶バンドン工科大学／インドネシア
（Institut Teknologi Bandung）

〔1〕研究及び履修方法

⑴ 研究の計画、実施及び博士論文作成にあたっては、指導教授の研究指導を受けなければなりません。

⑵ １年次の９月末日までに研究計画書を、２年次の12月末日までに研究経過報告書をそれぞれ指導教授を経て研究科委員会に提出しなければなりません。

⑶ 指導教授の指導により、特論、特殊論文研修Ⅰ、特殊論文研修Ⅱ、特殊論文研修Ⅲ、特殊論文研修Ⅳ、特殊論文研修Ⅴ、特殊論文研修Ⅵの７科目14単位及び共通科目設置の必修科目１科目１単位を履修しなければなりません。

ただし、優れた研究業績を上げて博士学位論文を１年次で提出する者は、特論、特殊論文研修Ⅰ、特殊論文研修Ⅱ及び共通科目設置の必修科目１科目１単位を、２年次で提出する者は、特論、特殊論文研修Ⅰ、特殊論文研修Ⅱ、特殊論文研修Ⅲ、特殊論文研修Ⅳ及び共通科目設置の必修科目１科目１単位を履修しなければなりません。

⑷ 指導教授が必要と認めた場合は、共通科目、他専攻又は他研究科の授業科目の中から10単位以内に限り履修することができます。

他専攻科目を履修する場合には、当該授業科目の担任教員の承認を、他研究科科目を履修する場合には、当該授業科目の担任教員の承認並びに当該研究科委員長及び理工学研究科委員長の許可を受けなければなりません。

⑸ 研究活動をするうえで、指導教授がその教育上に必要と認めた場合、指導教授が選任した副指導教授（１名）の研究指導を受けることができます。

⑹ 指導教授が教育上有益と認めた場合、他の研究科又は大学院若しくは研究所等において、必要な研究指導を受けることができます。

⑺ 副専攻の履修方法については95頁を参照してください。

〔2〕修了要件

博士課程後期課程を修了し、博士の学位を取得するための要件は下記の通りです。（大学院学則第44条参照）

⑴ 博士課程後期課程に３年以上在学すること。

※ 在学期間に関しては、研究科委員会が優れた研究業績を上げたと認めた者については、短縮されることがあります。

⑵ 特論、特殊論文研修Ⅰ、特殊論文研修Ⅱ、特殊論文研修Ⅲ、特殊論文研修Ⅳ、特殊論文研修Ⅴ、特殊論文研修Ⅵの７科目14単位及び共通科目設置の必修科目１科目１単位を修得しなければなりません。

ただし、優れた研究業績を上げて早期に修了する場合は、以下の通りです。

２年半で修了する者は13単位（特論、特殊論文研修Ⅰ～Ⅴ及び共通科目設置の必修科目）、

２年で修了する者は11単位（特論、特殊論文研修Ⅰ～Ⅳ及び共通科目設置の必修科目）、

１年半で修了する者は９単位（特論、特殊論文研修Ⅰ～Ⅲ及び共通科目設置の必修科目）、

１年で修了する者は７単位（特論、特殊論文研修Ⅰ～Ⅱ及び共通科目設置の必修科目）

を修得すること。

⑶ 博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

〔3〕授与される学位

専　攻	学　位
数学、物理学	博士（理学）
都市人間環境学、精密工学、応用化学、ビジネスデータサイエンス、電気・情報系	博士（工学）
生命科学	博士（理学）または博士（工学）を選択※

※研究の内容によって、博士（理学）と博士（工学）のうちのいずれかを選択できます。
ただし、最終的な学位の別は、研究科委員会での審査を経て決定されます。

〔4〕ダブルディグリープログラム

中央大学理工学研究科博士課程後期課程に在学中の学生が協定校へ留学し、留学先の指導教授のもとで研究活動を行います。帰国後、一定期間の本学での研究活動を経て、本学及び協定校へ博士学位論文を提出し、それぞれの審査基準に則って審査され、合格した場合に両大学院の学位を取得できる制度です。

募集要項はC Plusを通じて配布します。出願にあたっては、事前にかならず指導教授と相談してください。

1　協定校

▶バンドン工科大学／インドネシア
（Institut Teknologi Bandung）

▶國立中央大学／台湾
（National, Central University, Taiwan）

2　留学期間

原則として２セメスター

※具体的な期間は各プログラムの募集要項を確認してください。

3　出願資格

▶バンドン工科大学

本学理工学研究科博士課程後期課程の入学試験に合格し、入学を予定している者。
また、出願時点で次の各号の全てに該当する者。

⑴　学業成績、人物ともに優れており、大学院入学後の指導教員から推薦を受けた者
⑵　TOEICにおいて640点以上のスコアを有する者

▶国立中央大学

本学理工学研究科博士課程後期課程の入学試験に合格し、入学を予定している者。
また、出願時点で次の各号の全てに該当する者。

⑴　学業成績、人物ともに優れており、大学院入学後の指導教員から推薦を受けた者
⑵　協定校での研究を行ううえで十分な英語能力を有する者

4　選考方法

⑴　書類審査　　⑵　口述試験

5　学費

派遣生は、本学に学費を納入することとし、ダブルディグリー留学の対象となる大学の学費の支払いは免除しますが、ダブルディグリー登録料を納入していただきます。登録料は協定校での審査に合格した後、通知します。

6　登録料

別に定める

※詳細は各プログラムの募集要項を確認してください。